

# 大阪市の結果

大阪市教育局

## ■ 調査の概要

- 調査の目的
  - 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、大阪市教育局基本計画に基づく教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
  - 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
  - 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査の対象
 

小学校第6学年の全児童、中学校第3学年の全生徒（悉皆調査）

  - 小学校 290校、18,313人・中学校 130校、15,753人
- 調査の日時
 

平成31年 4月18日(木)

## ■ これまでの取組と本年度の結果の概要

[https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/factsheet/19prefecture-City/513\\_osaka/index.html](https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/factsheet/19prefecture-City/513_osaka/index.html)

- 本市においては、昨年度の結果を受け、全小中学校への「指導主事等による学力向上サポート訪問」や活用（応用）問題を中心とした「振り返りプリント」の実施など、教育委員会と学校現場が一体となった取組を進めてきました。
- その結果、平均正答率の対全国比については、小学校算数においてやや改善は見られたものの、小学校国語において30年度調査より低い結果となり、一層の改善が必要です。また、中学校国語、数学においては、どちらの教科も30年度調査とほぼ同じ結果であり、3年間でほぼ横ばいにとどまっており、中学校英語においても中学校国語、数学とほぼ同程度の結果となっています。すべての教科において全国平均に満たないため、今後も改善が必要です。
- 一方、小中学校のべ80校を対象に実施している「学力向上推進モデル事業」において、国語・算数・数学の授業改善を目的とした実践的指導を行ったモデル校では、これまで本市の課題であった国語における「書く力を問う問題」で全国水準に近づいたり、数学における「数学的に考える問題」で全国水準を上回ったりするなど改善が見られました。
- こうしたことから、来年度に向けて本年度の課題を取り入れた「振り返りプリント」の確実な実施や、「学力向上推進モデル事業」での効果的な指導方法を共有し実践できるよう、全小中学校をよりきめ細かく支援し、大阪市全体の学力向上につなげていきます。

[教科の分析については今後進めていきます。]

### 平均正答率《大阪市と全国》

※ 全国平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。  
 ※ 令和元年度より一体的に出題。 ※ 中学校英語調査は令和元年度より実施。

国語・算数・数学・英語		H29			H30			R1		
		大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比
小国	A問題	71	74.8	0.95	66	70.7	0.93	58	63.8	0.91
	B問題	53	57.5	0.92	51	54.7	0.93			
小算	A問題	75	78.6	0.95	62	63.5	0.98	65	66.6	0.98
	B問題	42	45.9	0.92	49	51.5	0.95			
中国	A問題	74	77.4	0.96	74	76.1	0.97	70	72.8	0.96
	B問題	68	72.2	0.94	58	61.2	0.95			
中数	A問題	62	64.6	0.96	63	66.1	0.95	57	59.8	0.95
	B問題	45	48.1	0.94	44	46.9	0.94			
中英	A問題	—	—	—	—	—	—	54	56.0	0.96
	B問題	—	—	—	—	—	—			

### 平均無解答率《大阪市と全国》

※ 平均無解答率の値は、小さいほど良好な結果を表しています。

国語・算数・数学・英語		H29			H30			R1		
		大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差
小国	A問題	3.0	2.8	0.2	3.4	3.5	-0.1	6.3	6.2	0.1
	B問題	4.6	4.3	0.3	4.1	3.8	0.3			
小算	A問題	1.8	1.6	0.2	2.0	2.5	-0.5	2.6	2.7	-0.1
	B問題	6.2	6.4	-0.2	7.4	7.9	-0.5			
中国	A問題	2.9	2.4	0.5	3.6	3.1	0.5	3.5	2.6	0.9
	B問題	5.1	3.8	1.3	4.1	3.0	1.1			
中数	A問題	7.5	6.3	1.2	3.7	3.3	0.4	8.8	7.3	1.5
	B問題	14.5	11.7	2.8	14.9	12.6	2.3			
中英	A問題	—	—	—	—	—	—	6.7	6.0	0.7
	B問題	—	—	—	—	—	—			

■ 質問紙調査結果の概要



児童質問紙



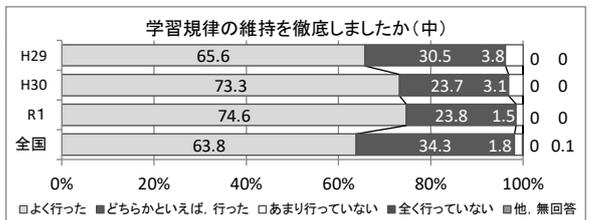
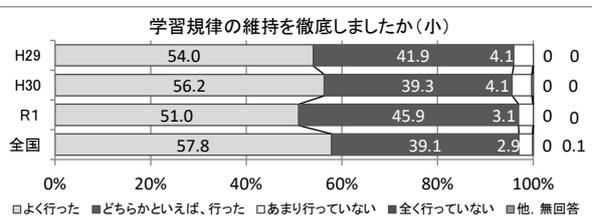
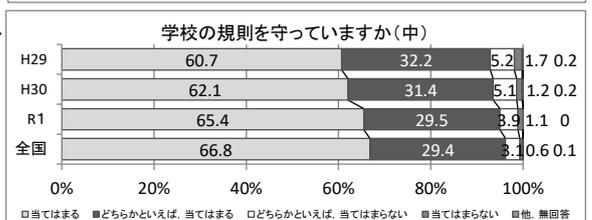
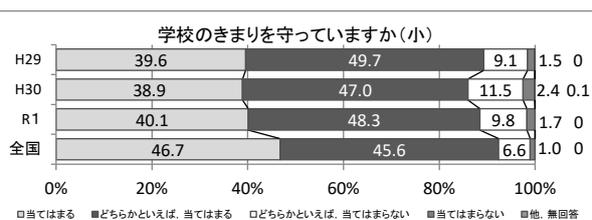
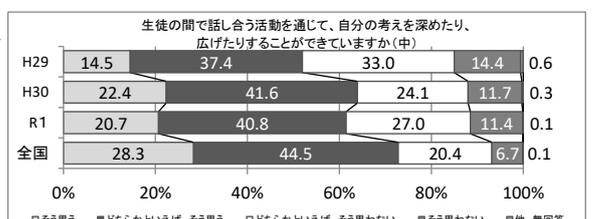
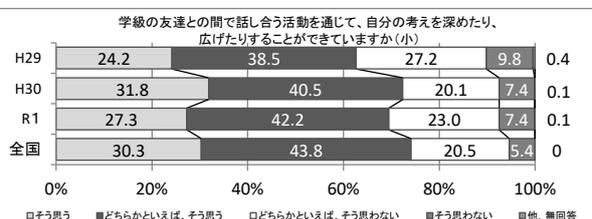
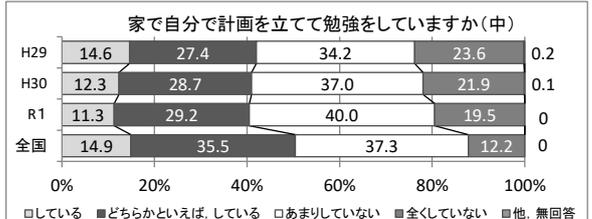
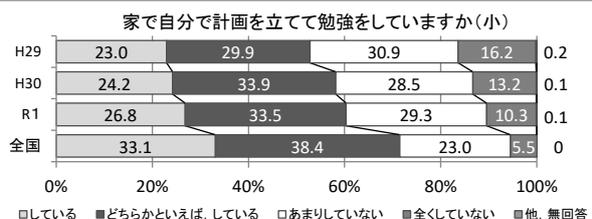
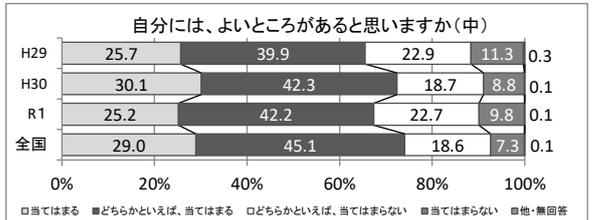
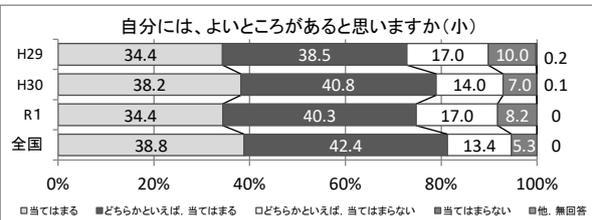
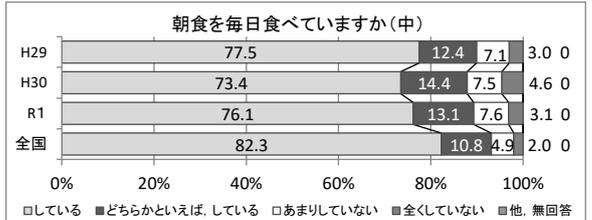
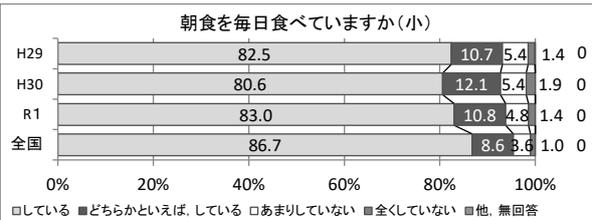
生徒質問紙



学校質問紙

[https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/factsheet/19prefecture-City/513\\_osaka/index.html](https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/factsheet/19prefecture-City/513_osaka/index.html)

- 「朝食を毎日食べていますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、30年度と比べ、小学校、中学校ともにやや増加しています。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、30年度と比べ、小学校はやや減少しており、中学校も減少しています。
- 「家で自分で計画を立てて勉強していますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、30年度と比べ、小学校はやや増加していますが、中学校では大きな変化は見られません。
- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、30年度と比べ、小学校、中学校ともにやや減少しています。
- 「学校のきまり（規則）を守っていますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、30年度と比べ、小学校、中学校ともやや増加しています。
- 「学習規律の維持を徹底しましたか」という質問に対して「よく行った」と回答した学校の割合は、30年度と比べ、小学校、中学校ともにやや増加しており、特に中学校は全国を上回っています。



※国が公表している大阪市のデータを参照しています。